

**立教大学国際学術研究交流制度**  
**在外研究**  
**2022年度研究成果報告書**

研究代表者	所属部局・職名		氏名	
	社会学部・教授		村瀬 洋一	
研究課題	社会階層と社会ネットワークの国際比較に関する実証研究			
全研修期間	2022年8月15日～2023年9月11日(393日間)			
経費	年度	申請額	所属学部からの補助額	助成額
	2021年度	円	円	円
	2022年度	1,761,500円	600,000円	746,500円
主な滞在国及び研究機関名	国名	研究機関名		
	台湾	輔仁大學		
<b>研究成果の概要</b> (図・グラフは使用しないこと)				
<p>申請者の研究目的は、各国における計量社会学や社会階層研究の、最先端の状況を把握するとともに、東アジアにおける社会階層や不平等について、社会調査データを分析し研究成果発表をすることである。8月15日に台湾に着き、4日間の隔離期間の後、輔仁大学にて研究室をお借りして、研究交流を開始し快適に過ごしている。輔仁大学は立教大学社会学部と研究交流を続けており、社会学研究に関しても優れた大学である。とくに社会階層研究が盛んであり、優秀な人材が多い。既に2008年に半年間、台湾に滞在経験があり、それ以降はほぼ毎年、輔仁大学を訪問し研究者との情報交換も続けている。学内で色々な研究者と接し、日本での社会調査の分析結果について、日本語や英語での発表を行った。仙台市と東京都での社会調査データを分析し、コロナ禍での、人々の意識や行動の変化、経済再開への政策に関する問などについて、計量分析結果を発表し、英語や日本語で討論することができた。</p> <p>台北郊外の淡江大学や、台中の東海大学も訪問し、何人かの研究者とお会いしてお話した。最近の台湾における社会問題や、社会の変化について、台湾の研究者と研究交流を行い、東アジアの社会構造の特徴について考察し意見交換ができた。最近では、中国との緊張関係があり、日本でもニュースが多いが、実際に台湾に住むと平和であり戦争の気配はない。しかし12月には台湾政府が、男子の兵役義務を、4月の軍事訓練から12月に変更することを発表するなど、様々な変化もある。台湾は豊かな部分もあり、経済は、半導体など好況であるが、若者の就職状況は厳しく、卒業後は無職の人も多い。日本のような、在学中の就職活動は存在しないので、多くの学生が卒業後は無職である。ほとんどの人が、卒業後に、ゆっくり時間をかけて仕事を探すことになる。それら社会の特徴や社会の変化についても意見交換をし、考察を深めることができた。</p> <p>申請者は科学研究費により、2022年7月までに、コロナ禍の人々の意識や行動変容について独自の社会調査を実施し、東京都と仙台で各1000人以上の回答を集めデータファイルを作成した。台湾滞在中は、その分析結果を含めて社会階層やネットワーク保有の特徴について分析を進めることができた。人々の将来への認</p>				

**研究成果の概要** (つづき)

識や将来予測は、行動の重要な規定因であることはよく知られている。しかし、将来への不安感や将来認識についての分析、社会意識とネットワークの関連についての実証研究は、あまり多くはない。しかし格差といっても所得や資産、学歴、政治的影響力、人間関係の保有など、多角的に測定することが可能である。本研究は、これらの複数の次元と、行動や、社会意識との関連についてデータ分析し、新たな知見を得ることを目的とする。まだ半年間の滞在だが、データ分析結果をもとに発表と討論をし、最新の動向を把握することができた。

将来への認識や、影響力、人間関係ネットワークの構造は、政治社会学の根本的な課題だが、実証研究は多くはない。また社会意識や価値観に関する日本の特殊性もイングルハートらに指摘されているが、これらを考慮した独自の実証研究は多くはない。脱産業社会においては、農村共同体的な人間関係は存在せず、人々の価値観の変化が各国において存在する。信頼感の低下や人間関係の希薄化については、社会関係資本に関する研究が大きな注目を集めている。本研究により、将来認識や参加行動や社会意識について、また、人間関係の保有や政治的影響力を含めた多角的な社会構造について、厳密な統計的社会調査を行った上での、データ分析を行うことは、学問的な意義が大きい。社会意識と、多様な社会的資源の保有や非一貫性の構造、資源と、参加との関連を明らかにすることは、実証的な社会構造研究の進展のために大きな意義がある。今後はさらに分析を進め、論文を作成する予定である。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを5項目で記入)

[社会階層研究] [政治社会学] [不平等意識] [社会構造] [社会ネットワーク]

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

④その他

研究会発表. 村瀬洋一「新型コロナ禍における日本社会の特徴 ―人々の意識と階層についての社会調査結果」輔仁大学日文系講演. 2022/10/25.  
研究会発表. 村瀬洋一「Health or Economic Growth?: Data Analysis on the Association between Attitude and Social Stratification in the COVID-19 Crisis」台中 東海大学社会学系講演. 2022/11/3.  
学会発表. 村瀬洋一「日本の新型コロナ禍における社会意識と行動に関する社会調査 --社会階層と行動の関連に関する計量分析」日本社会学会. 大阪, 追手門学院大学. 2022/11/13.  
研究会発表. 村瀬洋一「Health or Economic Growth?: Data Analysis on the Association between Attitude and Social Stratification in the COVID-19 Crisis」台中 東海大学社会学系講演. 2022/12/19.  
研究会発表. 村瀬洋一「Health or Economic Growth?: Data Analysis on the Association between Attitude and Social Stratification in the COVID-19 Crisis」輔仁大学社会学系講演. 2023/3/1.